

令和 5年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 こども・若者部会	参加者数	64 人	会場	ハイブリット(集合・WEB会議)
	日時	令和 6 年 2 月 6 日 (火) 13:30 ~ 15:30				
主 テ ー マ	1 情報提供 2 今年度の活動報告 3 意見交換 4 その他					
	(1)情報提供 ・不登校や精神疾患の割合が全国平均より高い。 ・きょうだい児は一人で悩みを抱え込みやすく、家族単位の支援が必要。 ・相談窓口はあっても勇気を出して悩みを話せる人は少ない。いい子を演じる傾向もある。 ・今後も交流会と広報活動の継続と課題解決のため事業の立ち上げに向けて活動中。 (2)長野県多文化共生についての情報提供 ①県内に住む外国人の状況と県が目指す多文化共生社会について R4年12月時点の県内の外国人は約38,000人。R5年度は4万人を超える想定している。 「共に学び、共に創る しんしゅう多文化共生新時代」を創造することを基本目標とした「長野県多文化共生推進指針2020」を策定。 ②主な支援内容と活動 ・日本語学習コーディネート事業[公益財団法人 長野県国際化協会]R4年度実績:36校園 ・通訳・翻訳事業[公共財団法人 長野県国際化協会] ・しんしゅう日本語教育等人材バンク[長野県 多文化共生・パスポート室] ・長野県多文化共生相談センター[公益財団法人 長野県国際化協会[県委託]] ・「やさしい」日本語の活用と普及活動の説明があった。 ③長野県多文化共生相談センターについて ・外国人県民を対象に様々な相談を15国以上の言語に対応。 ・弁護士による相談や東京出入在留管理局への相談受付対応。 (3)今年度の各連絡会の活動報告 活動報告書と取り組み管理シートをもとに各連絡会の活動内容を共有した。 (4)意見交換 ・保育所等訪問支援の必要性があっても認知が低く利用に繋がらない。 ・医療の視点からも保育所等訪問支援はありがたい。事業内容を把握し共有したい。 ・児童の相談支援専門員は夕方の会議が多い理由で計画相談員がみつからない。児童の計画相談を社会福祉協議会等で 対応してもらえば成人期のつながりもできてありがたい。					
ま と め	外国語の通訳や相談、ヤングケアラー専門相談窓口など、社会資源の共有ができた。また、課題として、保育所等訪問サービスの事業等について、地域の社会資源を共有していく。児童に対応出来る計画相談員が地域に少ない等確認できたので来年度検討していく。					
次 回						